

庭作り—ガーデニング

大きな庭までそれぞれに



市販の園芸用土

園芸の基本は土作りから。良い土の条件は、通気性・排水性（無駄な水を捨てる）・保水性（必要な水を保つ）の三点です。それは赤玉土や腐葉土、パーミキュライトをバランスよく配合して作ります。比率は土の入っている袋に記載されているので参考にしてください。また、袋の底に残ったみじんは通気性や排水性を損なうので、使わな

まずは土から



世紀末といわれた一九九〇年代ころから、日本人のライフスタイルは「物主義」から「心主義」に変わったようです。ペットとともに、人の心に潤いをもたらしてくれるガーデニング。今回はこれを取り上げてみました。なお、取材には勢多農高生物生産科植物科学コース草花班の生徒の皆さんにご協力をいただきました（担当は市民編集委員・大崎、岡村）。

いほつがよいでしょう。ハンギングには、軽いパーミキュライトやピートモスを使います。なお、一度使った土を再利用するにはシートに広げ、太陽に十分当てて殺菌消毒しましょう。それに肥料を施して使います。

今のはやりは



雨や病害虫に対して抵抗力のある、品種改良されたベチュニアなどが好まれてきているようで、ポットマム（キク科）の人気も根強いです。また、多くの人がハーブを育てています。庭木では、一家に一本はあった松が、今では洋風のコンニャクに取って代わりました。

庭がなくても



最近では、ベランダを利用してガーデニングを楽しむ人も増

えています。トレリスをうまく使ってハンギングにしたり、コンテナで上手に演出したりしている家庭も多く見られるようになります。また、ガーデニングとは多少異なりますが、土の代わりにハイドロボール（赤土を高温で焼いた豆粒大の物）や水を吸ってゼリー状になる高分子化合物を利用し、瓶で成育させれば、インテリアとして家の中でも楽しめます。

ご存じでしたか



年の暮れにいただいたシクラメンの鉢植え。この花はヨーロッパでは、本来、一月から四月にかけて咲きます。翌年の夏の間、雨の当たらない、涼しい所に置いておくと次の冬も楽しめます。また、春に咲いたスイセンや

これから楽しめる花



これから植えるとしたら、真夏に咲く花です。強い日差しにも負けないニチニチソウやポーチュラカなど、いかがでしょうか。また、半日陰を好むインパチェンスも鮮やかな花を付けます。ぜひ、お試しください。

本市の園芸品購入額は県庁所在地7位



総務省統計局の平成14年家計調査によると、本市は園芸品・用品の支出金額が全国県庁所在地の中で7位。園芸を好む家庭が前橋市には多いようです。